

SCCR 第1 聖会
「御霊に満たされなさい」
エペソ 5:15~21

主題聖句：「御霊に満たされなさい。」(エペソ 5:18)

朗読箇所：15 ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、16 機会を十分に活かさない。悪い時代だからです。17 ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを悟りなさい。18 また、ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。19 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。21 キリストを恐れて、互いに従い合いなさい。

始めに

1. お招きの感謝とテーマ
2. 「聖霊に満たされる」という表現：新約聖書中多く見られる。例：「ザカリヤは聖霊に満たされて預言した」(ルカ 1:67)、「弟子達は…聖霊に満たされて語った」(使徒 4:8、7:56 その他)。これらは特別な人々と考えられ勝ちだが、パウロは、聖霊の満たしは普通の信徒が普通の生活の中で経験する恵みである事を強調する。
3. エペソ書の概要と「聖霊の満たし」：エペソ書の主題は「キリストの体である教会」前半 1~3 章迄が教理的部分、後半

4~6章が実践的部分。特に4~5章前半は、異教社会から回心したばかりのエペソ信者に対して「今迄の罪の生活から足を洗って、聖い生活を送りなさい」と勧める(4:29、31、5:3、5:18など)。そして積極的勧告として「御霊に満たされなさい」(18節)と勧める。

A. 「御霊に満たされる」とは？

1. 「私達の心を聖霊によって、他の要素に妨げられずに支配して頂く事」
2. 「満たされる」経験の前提は、「聖霊を宿す事」(キリスト者は聖霊を受けた者)：(ローマ8:9「キリストの者とは御霊を受けた者」、1コリント12:3「聖霊によるのでなければ、誰も『イエスは主です。』と言う事はできません。」)
3. 聖霊に満たされる条件：心を明け渡す事：アボット博士によれば「聖霊に満たされるとは、聖霊のご人格が信者の人格を所有し、支配し、指導し給う事」=お客さんとしておられる聖霊に全ての部屋を明け渡す事、その主権に白紙委任をする事。
4. 私の経験：聖会毎に、明け渡して信仰に立った「積り」になったが永続しなかった。先輩から、ローマ6:11の「あなた方もキリスト・イエスにあって、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと認めなさい(計算して、そこに安住せよ)。」との聖言を示され、単純に信仰に立つことができた。

B. 聖霊に満たされ続ける

1. 受身現在進行形：エペソ5:18の「聖霊に満たされなさい」

は受身現在進行形。「満たされ続ける」とは、最初に満たして頂いた心の姿勢を保ち続ける事。

2. 聖霊により頼みつつ歩む:聖霊に満たされ続けるとは、必ずしも「霊的な高揚」を保ち続ける事ではなく、人格である聖霊の影響と感化をフルに受けられる状態に自らを置き、彼と交わり、主として崇め依り頼みつつ歩む事。

3. 御霊に満たされた結果

- ・ 讚美での交わり: 19節以下の「詩と賛美歌と霊の歌をもって互いに賛美し、互いに励まそう」との勧めは「分詞形」で、満たされた結果としての賛美と交わり。
- ・ 感謝に溢れる生涯:①いつでも、②全ての事について、③キリストの名で、④父なる神に対して感謝があふれる生涯が送れる。

終わりに

「満たされ続ける」為には「満たされる」始めがある。主に全く自分を明け渡し、自らをキリストと共に十字架に付けると告白し、信じて歩み始めよう。

SCCR 第2 聖会
「御霊による歩み」
ガラテヤ5:16~25

主題聖句：「御霊によって歩みなさい。」（ガラテヤ5:16）

朗読箇所：16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。17 肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。18 御霊によって導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。19 肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、21 ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。25 私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進むものではありませんか。

始めに

1. 前回との関わり：前回はエペソ書から「御霊に満たされる」事、今回はガラテヤ書5章から「御霊による歩み」がテーマ。

2. ガラテヤ書中での位置づけ:ガラテヤ書は、パウロの宣教活動初期にパウロが開設したガラテヤ諸教会に宛てた手紙。彼らの中に「ユダヤ主義者」達が入り込み「割礼を受け律法を守らなければ本当の信者とは言えない」と教えた為に起きた混乱を鎮めるために書かれた。パウロは「救いは信仰によって与えられるもので、律法遵守によるのではない」と強調。5:1に「キリストは自由を得させる為に私達を解放して下さいました。ですからあなた方は…再び奴隷のくびきを負わされないようにしなさい」との「自由宣言」に基づき、活ける御霊に導かれる信仰生活を勧める。

A. 御霊による歩みの前提

1. 御霊による生まれ変わり:「御霊によって生きるならば」(16節)は、御霊による歩みの前提を示す。それは聖霊による新生のこと。「御霊によって、死んだ状態から活かされた、つまり、主を信じてクリスチャンとなった事実がはっきりしているなら、御霊に導かれて歩もうではないか」と言う。「あなた方は自分の罪過と罪との中に死んでいた者…しかし、憐み豊かな神は…キリスト・イエスにおいて、共に甦らせ、共に天の所に座らせて下さいました。」(エペソ2:1)。
2. 御霊の満たし:更に「御霊によって生きる」とは、「情欲や欲望と共に肉を十字架に付ける」(24節)事。「情欲を十字架に付ける」とは自然の欲望を罪悪視して、押し殺す事ではなく、欲求満足を第一とする心を十字架につけること。

B. 御霊に導かれて歩む

1. 御霊により頼む習慣の継続：「御霊によって（御霊に導かれて）歩む」とは「聖霊の感化と指導とに従って歩むこと」（16、25節）。

A. B. シンプソンによれば、「私達の全生命（霊と心と体）の為に、聖霊に依り頼む習慣の連続」。その為に私達の取るべき姿勢は、

- ①認識:内に臨在し、宿り給う友として御霊に話しかける。
- ②信頼:どんな期待にも喜んで応えようと待ち構えておられる聖霊に依り頼む。
- ③相談:聖霊の導きに信頼し、事毎に相談する。
- ④服従:御言に日々接し、その中に主の御心を探り、それに自分を当てはめて従う。
- ⑤同調:主の指差しに、遅れぬよう、早まらぬように、御霊の歩調に自分の歩みを合わせる。これを身につけるためには良心の柔らかさ、敏感さを必要とする。

2. A先生の証し：開拓伝道中のA牧師は、未信者の家族の訪問を断ったが、その理由が真実ではなかった。それを聖霊に示されて、心から悔い改め、信仰に再び立った。私たちが養うべきは、聖霊の導きに気付く sensitivity と、それに従う従順さである。

3. 御霊によって歩む祝福：シンプソンは三つを挙げている：

- ①罪への勝利：「…そうすれば、肉の欲望を満たす事は決してありません。」（16節）
- ②平安と確信:神の御心を行っているという愉快的静けさと安らかさ。
- ③勝利の出会い:人生に起きる全ての事の中に摂理的出会いを感じつつ生きる。

C. 御霊によって前進する(25節)

16節が「個人的歩み」を強調しているのに比べ、25節は「共同的な前進」(stoichoomen)は、軍隊で列を作っての行進を強調。御霊による歩みは、個人的な営みであると共に、共同的なものでもある。互いへの気遣いと励まし合いに努めよう。

1. 互いに尊敬する (26節): 異なる賜物を持ったお互いへ尊敬がないと「うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったり」する。
2. 互いに謙遜と愛をもって警告する: 「もし誰かが何かの過ちに陥っている事が分かったなら、御霊の人であるあなた方は、柔和な心でその人を正してあげなさい。」(6:1) 過ちに陥った兄弟に対して、陰での批判ではなく、謙遜と愛をもって忠告する。或る人に問題を見たならば、十分な祈りの後、対面で最大限の謙遜をもって忠告をする。もし彼が聞き入れなければ、2、3人の長老と共に同じ勧告をする、それでも聞き入れなければ然るべき方法で懲戒をする、これが聖書的方法。
3. 互いの重荷を負う: 「互いの重荷を負い合いなさい。そうすればキリストの律法を成就する事になります」(6:2) 親身になって、互いの弱さを担い合うものになりたい。

終りに

御霊による歩みが齎す実である「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」については、次回に取り上げる。期待しよう。

SCCR 第3 聖会

「御霊の実」

ガラテヤ 5:16~25

主題聖句：「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」（ガラテヤ 5:22）

朗読箇所：16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。17 肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。18 御霊によって導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。19 肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、21 ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。25 私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進もうではありませんか。

始めに

「御霊の実」について自己採点して見よう。「十分持っている」は1; 「まあまあ持っている」は2; 「普通」は3; 「足らな

いと思う」は4;「ものすごく欠けている」は5

愛()

喜び()

平安()

寛容()

親切()

善意()

誠実()

柔和()

自制()

A. 肉の行いと対照的 (17~21 節)

「御霊の実」の反対概念である「肉の行い」が17-21 節に示されている

1. そのリスト:

a. 性的な不道徳

不品行:非合法的性関係

汚れ:神との間を隔てる心身の汚れ

好色:官能本意主義

b. 間違った宗教

偶像礼拝:神ならざる神を拝む

魔術:占いや魔術の使用

c. 醜い人間関係

敵意:自分と異なる人々への敵対的な態度

争い:敵意の現れとしての言葉や行動

そねみ:成功した他人を羨ましく感じる感情

憤り:感情のコントロールを失った爆発的な怒り

党派心：利己的な野心

分裂：その野心によって結びついた人々が形造る党派

分派：教会内の党派で、ある確信に基づいて行動するグループ

嫉み：他の人を蹴落としたいという苦い思い

d. でたらめな生活

酩酊：酒の飲み過ぎ

遊興：道楽、放蕩

2. リストの目的:神の助け無しには、人間は如何に墮落し得るものかを示す為。

B. 御霊の実(22~23 節)

1. 御霊との親密な歩みの結果:これらの「実」は、私達の内に注がれている御霊が生み出す新しい性質。私たちが聖霊と近く歩んでいると、知らずの中に受ける感化。

2. 9つの実是一体的：肉の行いは複数だが、御霊の実は単数。様々な種類の果物ではなく、一つの木から生る一房の葡萄、少しずつ色合いの異なる実の事。アボット博士は、この9つを、愛を基本と捉えて説明している：喜び（歌っている愛）、平安（憩っている愛）、寛容（持ちこたえる愛）、親切（分かち合う愛）、善意（愛の完全さ）、誠実（習慣となった愛）、柔和（愛の触れ合い）、自制（責任感を伴う愛）。

3. 麗わしい諸性質

愛 vs 憎しみ:自分を与える犠牲的な愛（神に対して、隣人に対して）

喜び vs 悲しみ:逆境の中でも湧き出てくる主にある喜び

平安 vs 思い煩い; 困難な状況下でも主に受け入れられている
顔きから来る心の安らぎ

寛容 vs 短気: 腹立たしく感じるような環境や失われない忍
耐強さと思ひ遣り

親切 vs 意地悪: 他人への善を示す思いやり、他人に役立つ親
切な行動

善良 vs 邪悪: 物事を大らかに暖かく見ようとする心、値しな
い者に向けられる善意

誠実 vs 疑い: どんな事情の中でも真実である姿勢、あらゆる
義務と期待に応える真実

柔和 vs 暴虐: 他人の喜びの為に利己的な思いを放棄する謙
り、強さと柔らかさの共存

自制 vs でたらめ: 神の宮である体をより高い目的の為にコ
ントロールする克己心

4. キリストらしさ: 「御霊の実」はイエス・キリストの中に
具現されていた。

愛: イエスは全き愛の人で、敵をも愛する愛に満ちておられ
た。

喜び: 聖霊による喜びに満たされていた。

平安: 嵐の中でも静かに眠っておられた。

寛容: 人々の嘲りを寛容によって持ち応えられた。

親切: 人々の弱さ、病を担って下さった。

善意: 十字架に付けた兵士の赦しを祈った。

誠実: ラザロの墓で、その復活に関して、み父の最善を絶対
的に信じておられた。

柔和: 最後の晩餐の席で洗足をされた。

自制: 活動後の翌朝も、早起きをして祈りに打ち込まれた。

5. 努力の結果ではない:これらの徳目によって不必要に自分を責めたりする不信仰、自分を誉めたりする傲慢の罪から救われよう。果物は結実に向かって努力しない。欠点を指摘されたら認めて遜り、褒められたら栄光を主にお返しして、ますます励もう。

終わりに

「御霊の実」の約束を感謝し、ひたすら、御霊と共に歩む道を続けよう。

SCCR 第4 聖会
「聖霊による宣教」
使徒 1:4~8, 2:1~4

主題聖句：「聖霊があなた方の上に臨む時、あなた方は力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、更に地の果て迄私の証人となります。」（使徒 1:8）

朗読箇所：1:4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。5 ヨハネは水でバプテスマを受けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」6 そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」7 イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

始めに

昇天前、主イエスが弟子達に残されたご遺命が「宣教」であり、宣教の原動力として指差されたのが「聖霊の力」であった。

A. 主イエスの遺言と約束

1. 宣教の命令：4福音書の終わりはみな、宣教命令

- ・マタイの終り：「11人の弟子達は…イエスが指示された山に登った。…イエスは…言われた。『…あなた方は行ってあらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、私があなた方に命じておいた全ての事を守るように教えなさい。見よ。私は世の終わり迄いつもあなた方と偕にいます。』」(28:16~20)
 - ・マルコの終り：「イエスは…言われた。『全世界に出て行き、全ての造られた者に福音を宣伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われます。』」(16:15~16)
 - ・ルカの終り：「キリストは苦しみを受け、…甦り、その名によって罪の赦しを得させる悔改めがエルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」(24:46~48)
 - ・ヨハネの終り：「イエスは…言われた。『…父が私を遣わされたように私もあなた方を遣わします』…彼らに息を吹きかけて言われた『聖霊を受けなさい。あなた方が誰かの罪を赦すならその人の罪は赦されます。…』」(20:21~23)
 - ・「使徒の働き」の始まり：「聖霊があなた方の上に臨む時、あなた方は力を受け…エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、更に地の果てまで、私の証人となります。」(1:8)
- #### 2. 宣教の力としての聖霊：宣教の力として聖霊賦与が約束され

ている。「私は私の父の約束して下さったものをあなた方に送ります。あなた方はいと高き所から力を着せられる迄は都に留まっていなさい。」（ルカ 24:49）使徒 1 章も同様「エルサレムを離れないで…父の約束を待ちなさい。…あなた方は間もなく聖霊によるバプテスマを授けられる。…聖霊があなた方の上に臨む時、あなた方は力を受けます」（4,5,8 節）

B. 弟子達の求め

1. 10 日間の祈り：弟子達は「エルサレムを離れないで…」（使徒 1: 5）との命令に従って真剣に祈り求めた。祈った人々は、11 弟子、婦人達、母マリア、イエスの兄弟達を含む 120 人（1:15）。場所は（多分）マルコの母マリア家の屋上。彼等は 10 日間弛まず祈り続けた。また「心を一つにして」（1:14）祈った。宣教の目標が彼等の心を一つにした。その祈りの中で互いの反目、わだかまりを言い表わし、謝罪した。この祈り会のメンバー・ヤコブは「あなた方は互いに罪を言い表わし、互いの為に祈りなさい」（ヤコブ 5:16）と言う。ペテロは傲慢を、ヨハネは癩癩を、トマスは不信仰を、ヤコブは政治的野心を、イエスの弟ヤコブは兄への不信仰を悔改めたとする。互いの告白と和解からリバイバルが起きた事例（1970 年 2 月@ケンタッキー州アズベリー大学）
2. ペンテコステにおける成就： 10 日間の祈り会の結果がペンテコステ。祈り求めていた弟子達は聖霊に満たされた。それに伴う徴は、「風のような音」（聖霊の到着の先触れ。風は、命の付与者としての聖霊のシンボル：エゼキエル 37:9、14）と「分かれた舌」のような炎（きよめの徴 = 出 19:18）。

C. 聖霊による宣教

1. 宣証: 聖霊は説教者を通して語られた。「御霊が語らせるままに…話し始めた。」(4節) また、聴衆の母国語での説教がなされた。聖霊が主導権をもって彼らの発言を導かれた(主イエスも「話すのはあなた方ではなく、あなた方の内において話される…父の御霊です」(マタイ 10:19-20)と言われた)。更に、聖霊は深い聖書理解を助けた。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせていただきます。」(ヨハネ 14:26)
2. 聖霊は、聞く人に感動を与えた: 聖霊による説教の結果として、聞いた人々が聖霊による認罪(37節)と主イエスを救い主と信じる信仰に導かれた。「聖霊によるのでなければ、誰も『イエスは主です。』と言う事はできません。」(1コリント 12:3)

終りに

宣教の為に召された私達は、聖霊に満たされる事、そして、御霊の力と知恵によって聖言を語る事、御霊が聞く人々に働き、救いに導かれる人々が起こされる事を求めよう。